

Yamagata University

# Annual Report

2018

【2017事業年度 事業と財務に関するレポート】



ごあいさつ

山形大学長

小山 清人

山形大学は、1878年に開校した山形県師範学校を前身とし、1949年に新制山形大学としてスタートした歴史がある国立大学です。学術の中心として、社会に優秀な人材を輩出することで、地域、世界の発展に寄与できるよう教職員が一丸となって日々尽力しているところです。

さて、近年の大学を取り巻く環境は、グローバル化、少子高齢化の進展、AIやIoTがもたらす第4次産業革命など、目まぐるしく変化しております。また、「人生100年時代」を迎えるにあたり、生涯を通じた学びの場が求められるようになり、教育のあり方が大きく変化することが予想されています。

# CONTENTS

ごあいさつ .....	01
山形大学3つの使命・5つの基本理念 .....	03
全学事業報告 .....	04
キャンパストピックス .....	07
ファイナンシャルハイライト .....	09
財務データ .....	10

山形大学では、社会の多様な変化に対し柔軟かつ迅速に対応しながら、社会・地域の将来の課題に応えるべく、「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を大学の使命として掲げています。そして、学長のリーダーシップの下、健全かつ大胆な大学経営を進めています。

主な取組としては、キャンパスの自立化に伴う財務の健全化・効率化です。国からの運営費交付金等については、年々減少傾向にあり、大学の自助努力による安定的な収入確保が必要となります。

現在、全国の大学が抱える課題として、経営力強化を目的とした、国公立の枠組みを超えた大学連携・統合

があります。本学は、4キャンパスそれぞれの強みを活かしつつ、「社会からの期待に応えられるような、新しい大学教育・経営のあり方は何なのか」という大きな問いを念頭に置き、積極的に大学改革に取り組んでいく所存です。

この「Annual Report」は、2017年度に実施した事業や財務状況を広く国民の皆様によりわかりやすくご理解いただけるように心がけて作成しておりますので、山形大学を「知る」一助となれば幸いです。

これからも山形大学へのご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。

## 〈山形大学の3つの使命〉



## 〈5つの基本理念〉

山形大学は「自然と人間の共生」をテーマとして、次の5つの基本理念に沿って、教育・研究及び地域貢献に全力で取り組み、国際化に対応しながら、地域変革のエンジンとしてキラリと光る存在感のある大学を目指す。

### ① 学生教育を中心とする大学創り

学生が主体的に学ぶ環境を作り、学生目線を大切にして学生とともに成長する大学を目指す。

### ② 豊かな人間性と高い専門性の育成

幅広い教養を基盤とした豊かな人間性、高度で実践的な専門性、課題発見と解決能力を養成する教育を通じて、知・徳・体のバランスのとれた人材を育成する。

### ③ 「知」の創造

人類の諸課題を解決するため、山形大学の強みと特色を活かした先進的研究を推進する。

### ④ 地域創生及び国際社会との連携

地域に根ざして、世界をリードする大学を目指す。

### ⑤ 不断の自己改革

将来にわたる持続的な成長のため、計画・実行・評価・改善の改革サイクルによる大学改革を継続する。

## [ 全学事業報告 Ⅰ ]

### ◆ 教 育

学生の主体的学修及び能動的学修を促進するため、基盤共通教育において、課題解決型授業（PBL）を導入し、さらに既存科目をアクティブラーニング型授業及びフィールドワーク型授業へ転換しました。PBLとしては、自ら学修目標を設定し課題を解決しながら継続し目的を達成する「みずから学ぶⅡ」（履修者約200名）を実施しました。また、全学生2単位必修の導入科目を全てアクティブラーニング型授業に転換するとともに、全学生2科目4単位必修の基幹科目についても全てアクティブラーニング型又はフィールドワーク型授業へ転換しました。2018年度までに学生主体型授業を30科目程度増やします。

大学院課程において、専門分野を超えた幅広い教養や実践的能力、高度な人間力を育成するために、専攻や研究科の枠にとらわれない共通科目の開講に向け、大学院統括教育ディレクター会議において授業内容及び開講形態について検討し、新たに8科目を2018年度に開講する準備をしました。8科目のうち6科目については、各研究科が1科目ずつ提供して、残り2科目については理事特別補佐の教員が中心になって、「キャリア・マネジメント」、「研究者としての基礎スキル」の授業を開講します。また、各キャンパスに授業を配信するためWEBによる遠隔講義を行います。

### ◆ 学生支援

学生の心身の健康を保持・充実させるため、学生委員会がアドバイザー教員や保健管理センターから、健康相談や学生生活上の悩み相談などの情報を収集し、その情報を学部等にフィードバックすることで、きめ細かな指導と手厚い支援に活かしました。

学生生活及び正課外活動を充実させるため、学生生活実態調査及び学生からのヒアリングに基づき、各キャンパスの課外活動施設（体育館、テニスコート、シャワー、トイレ等）の整備・改修を行いました。

### ◆ 国際交流

多彩な国際交流活動を推進するため、大学間交流協定を13件締結しました。これは2016年度の2件を大幅に上回っているものです。これにより、本学の教育・研究水準の国際化を更に高めることができます。また、協定校との間で実施する交換留学プログラムへの参加を希望する学生の選択肢を増やすことにより、2018年度以降、本学から交換留学プログラムにより留学する学生数の増加が見込まれます。

学生大使等については、モンゴル拠点の新設及びOB・OGによる広報で83人の派遣になりました。今後も本学学生の異文化理解力やコミュニケーション能力の向上、国際感覚の醸成等を図るため、派遣者数の増加を図ります。帰国後、学生は、留学生との懇談会を行う等、学内においても積極的な国際交流を行っています。



学生大使がラトビアで「折り紙」を紹介

## ◆ 研 究

山形大学先進的研究拠点(YU-COE)形成支援事業\*として、既に国際的な研究拠点として認められているYU-COE(S)の4拠点(総合スピ科学、分子疫学、有機エレクトロニクス、ナスカ研究所)及び分野横断型の国内外共同研究を行い、大きく発展すると期待されるYU-COE(C)の17拠点(新規8件、継続9件)を支援しました。

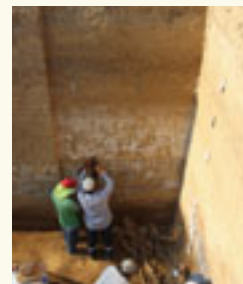
\*山形大学先進的研究拠点(YU-COE)形成支援事業:山形大学で行っている研究の中で、国際的に通用する、あるいは社会(地域)に大きく貢献すると認められる研究拠点に対して、重点的な支援を行う事業。

有機エレクトロニクスイノベーションセンター(INOEL)では、国内初となる「オープンイノベーションによるインクジェット研究開発拠点の設立」や、世界初となる「塗布プロセスによる新しい封止技術でフレキシブル有機ELパネルの長寿命化を達成」など、精力的な活動を展開しました。



紙のように折れ曲がるフレキシブル有機ELパネル

松本剛准教授が率いる研究チームが、ペルー北海岸シカン遺跡にて、大洪水やそれに伴う儀礼活動の痕跡を発掘しました。この発見は、ペルー全国紙「エル・コメルシオ」をはじめとする様々なメディアで報道されるなど、海外でも大きな反響呼びました。



ペルーでの発掘の様子

## ◆ 社会連携

本学における産学官連携の更なる強化を図るため、「山形大学産学官連携推進本部」を2017年4月1日に設置しました。同本部は、産学官連携の具体的な計画策定、知的資産によるプロジェクトの実行支援等を行う「イノベーション推進部門」、課題の解決策提案や柔軟な契約等の締結支援を行う「リスクマネジメント部門」で構成され、山形県内に展開する4つのキャンパスが連携し、組織対組織の本格的産学連携を発展させます。また、大学の知的資産等を活用して、産学官連携の更なる強化を図り、実効性のあるシステムを構築。地域社会経済の活性化に貢献します。

2017年度の実績として、大型研究プロジェクト(1,000万円以上)の獲得等を3件支援しました。



山形大学産学官連携推進本部のイメージ

## ◆ 総務・広報(大学運営)

学生と学長、理事及び各キャンパス長等との懇談会を全キャンパスで(計4回)開催し、学生の貴重な声を聞き入れ、教育環境の改善・整備等に役立てました。また、学長及び理事と各キャンパス執行部との情報交換会を全キャンパスで年2回開催し、改革の方向性について、各キャンパスとのビジョンの共有を行いました。

また、情報発信の充実のため、Twitterアカウントを開設し、受験生や若者をターゲットにした情報を配信しました。動画も昨年度までのコンテンツに加え、イベントや学生活動など新たに33本を作成し、YouTube上で公開したほかFacebook(月平均24回更新)やTwitterでも配信しました。これらSNSからホームページへの誘導も活用し、閲覧件数は、前年度と比較して33万件増となりました。さらに、広報誌「みどり樹」の発行回数を見直し、WEBマガジン「ひととひと」を開設するなど、紙媒体とWEB媒体を連携させた情報発信を行いました。

山形大学ソーシャルメディア公式アカウント  
<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/sns>



## [ 全学事業報告 3 ]

## ◆ 医 療

附属病院では、医療の国際化への取組として、院内受入体制の整備及び地域との連携体制の強化を行っています。

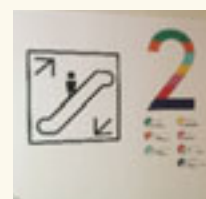
2017年5月には、世界屈指の医療先進都市米国ロチェスター市を訪問し、同市に拠点を置く総合病院「メイヨークリニック」を視察し先進事例の調査を行いました。

また、国際化に対応した院内サインについて、「読むサインから見るサイン」「記号・色・言葉を組み合わせさせたサイン」「外科系や内科系などゾーン毎に色分けしたサイン」の3つをコンセプトに、東北芸術工科大学デザイン工学部とのコラボレーションによるアート・デザインを用いた患者さんに優しい環境創りの要素も加え、病院2階部分を一新しました。

さらに、本院の情報を海外に発信するために、ジャパンインターナショナルホスピタルズ(JIH)の推奨や英語版病院ホームページの充実にも努めました。



山形大学医学部と東北芸術工科大学の  
共同記者会見後の写真撮影



読むサインから  
見るサインへ



各部門を大きな単位で  
ゾーン分け

## ◆ 総合的 学生支援 (EM) と 大学機関研究 (IR)

## 1. 総合的 学生支援 (EM※)

山形大学の特色や入試方法の内容を理解いただくため、東北6県及び栃木県、茨城県、新潟県(9県13会場)で高校教員を対象に説明会を開催し、計222校に参加いただきました。また、入試広報担当教員が、高校の進路担当教員との面談及び高校生や保護者を対象に進路講演会や進学説明会等を積極的に実施し、計570校の高校を訪問しました。

※EM(Enrollment Management: エンロールメント・マネジメント)

大学調査によって支えられ、戦略的なプランニングによって組織され、学生の大学選択、大学入学、在学中の教育サービス、休学・退学の減少、(卒業後も含めた)学生の将来などに関わる支援諸活動を総合的にマネジメントすること。



山形大学内で開催した高校教員対象説明会の様子

## 2. 大学機関研究 (IR※)

これまで蓄積された学生に関する情報及び研究活動に関する情報に加え、学内の諸活動を効率的に収集するためのシステムを導入し、次世代評価・開発機構のHP上に公開しました。さらに本学の教育・研究・社会貢献に関して3つの主要業績指標を以下のとおり策定し達成することができました。

- 教育: 授業改善アンケートの総合平均値の目標値4.4以上に対して、2017年度は4.42を達成
- 研究: 理系教員の国際的な学術誌への掲載目標値1.2件以上に対して、2017年度末の掲載件数は1.2件を達成
- 社会貢献: 東北地域企業等との共同契約件数を毎年度2件以上増に対して、2017年度は18件増を達成

また、入学生及び保護者が必要な情報を早期に収集するシステムとして、合格者専用のポータルサイトを構築し入学手続きの情報の発信を行いました。

※IR(Institutional Research: インスティテューショナル・リサーチ)

意思決定支援を目的とした山形大学に関する調査及び山形大学データの収集・蓄積・分析。学内に点在する諸データを集め、統合・分析し、可視化することで、効果のある改善策立案に寄与し、施策実施後の評価・検証等を行うことで、戦略的意思決定を支援すること。

## 小白川キャンパス

小白川キャンパスは、「学問基盤力、実践・地域基盤力、国際基盤力」を育成する3年一貫の学士課程基盤教育のほか、人文社会科学部、地域教育文化学部、理学部の学部教育、また社会人向けの教育プログラムなどが行われており、様々な目的で学びを求める人々を受入れ、育成する基盤を整備しています。また、3つの学部が協力し合い、スペースマネジメントを行うなど、限られた学内資源を効果的に活用するための取り組みを行っております。

小白川キャンパス内にある附属博物館では、人文科学、自然科学の各分野の資料を広く収集・保管し、展示・公開しております。常設展、特別展においては学生の研究成果である作品の展示もしております。

2017年度は、本学大学院の学生2人の研究である「紙の衣装」と「地域を主題とした平面作品」による特別展示「二人展」を開催するとともに、作品を囲んで、鑑賞者どうしのギャラリートークを行いました。



附属博物館 地域教育文化学部の学生の作品(常設展)



地域教育文化学部の学生の作品(noble)  
第27回紙わざ大賞  
「キッズアカデミー賞」受賞  
すべて紙で出来ています。  
(特別展)

## 飯田キャンパス

飯田キャンパスの附属病院では、地域の皆様のみならず、海外からの患者さんにも利用していただきやすい病院づくりを推進しております。

2017年度は、東北芸術工科大学デザイン工学部とのコラボレーションにより、アート・デザインを用いた患者さんにやさしい環境創りの実現を推進するとともに、各外来、病棟に多言語医療翻訳アプリを搭載したタブレットの整備等を行いました。

また、現在飯田キャンパスでは、世界最先端の医療装置により最良のがん治療を行うため、多くの皆様よりいただいております寄附金、文部科学省からの補助金などを原資として、「重粒子線がん治療装置」の整備を進めております。

そのほか、山形県内の医師確保や医療水準の向上のため、学内予算を活用し、自己研鑽の補助を行うなど、地域の皆様からの医療のニーズに応えるための人材育成、また環境整備を行っております。



多言語医療翻訳アプリを搭載した  
タブレット



重粒子線  
がん治療施設の  
建設現場



重粒子線  
がん治療施設  
内装のイメージ



## 米沢キャンパス

米沢キャンパスでは、最先端の研究開発、実践的な教育研究と基礎研究の展開を推進するとともに、研究・開発成果の見える化により産学官金の連携を積極的に推進しております。2017年度も、常温乾燥技術による「ドライリンゴ」を食材とした「ドライフーズレシピコンテスト」やアルファ化米粉技術による「アルファ化米粉レシピコンテスト」を地域企業、金融機関等と共同で実施しました。

米沢キャンパスの外部資金（民間企業等との共同研究費や、各省庁、県市町村等から交付される補助金など）の受入額は4キャンパスの中で最も多く、外部資金を原資とした大型プロジェクトも盛んに実施されており、最先端の研究拠点の整備が進んでおります。また、最先端の研究環境を活用した、実践力を育む教育活動が展開されており、世界に羽ばたく有為な人材の輩出を目指しています。



「ドライフーズレシピコンテスト」受賞者を囲んで記念撮影



「アルファ化米粉レシピコンテスト」受賞者の皆さん



最優秀賞  
「野菜たっぷり  
ハンバーグ」

優秀賞  
「おもっち〜ず」

「アルファ化米粉レシピコンテスト」  
受賞作品の一部

## 鶴岡キャンパス

鶴岡キャンパスでは、地域の特色を最大限に活かしてフィールドワークと実験を重視した教育と研究を行うとともに、地域の皆様に多様な体験・学習の機会を提供しております。

2017年度も、附属やまがたフィールド科学センターにおいて「農場フェスティバル」（農場産米の試食やツリークライミング体験等）や子どもたちを対象とした「森の学校」（花や木の実、動物の観察や積雪観察等）を実施しました。

また、鶴岡キャンパスには、民間企業からの寄附金による大型の寄附講座が設置されており、産業界と連携した取り組みを行っております。2017年度からは、寄附講座～食料自給圏「スマートテロワール」形成講座～における取り組みの一環で豚の飼育をスタートし、将来的にはハム等加工品の一般販売を行うことを検討しています。農場、演習林の農産品や、加工品の販売を通じ、安定的な収入を確保すると共に、山形大学ブランドの発信を図ります。



農場フェスティバル  
（左：農場産米を800食分提供、右：ツリークライミング体験）



森の学校  
（左：落ち葉でのプールづくり、右：スノーモービル体験）

# ファイナンシャルハイライト

(百万円)

	2017年3月 (H29/3)	2018年3月 (H30/3)	増減 (前年比)
<b>貸借対照表</b>			
資産	115,813	117,527	1,714
負債	44,730	46,207	1,476
純資産	71,083	71,320	237
<b>損益計算書</b>			
費用	40,761	40,618	△ 143
収益	41,684	42,425	741
運営費交付金収益	11,126	11,201	75
授業料等収益	5,122	5,084	△ 37
附属病院収益	19,236	20,270	1,033
受託・寄附金等収益	3,170	2,921	△ 249
その他	3,028	2,947	△ 80
当期総利益	922	1,807	884
(うち目的積立金)	(436)	(999)	(563)
<b>キャッシュ・フロー計算書</b>			
業務活動によるキャッシュ・フロー	5,246	5,494	248
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,320	△ 352	2,967
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,036	△ 1,324	711
資金期末残高	1,847	5,664	3,816
<b>国立大学法人等業務実施コスト計算書</b>			
国立大学法人等業務実施コスト	14,470	13,559	△ 911

注)百万円未満を切り捨てているため、合計額が一致しない場合があります。

2017事業年度は、資産が約1,714百万円増加しています。これは、主に米沢の有機材料システム事業化開発センターの完成や、小白川の総合研究棟改修の完了によるものです。

負債については約1,476百万円増加していますが、これは、固定資産(建物、機械など)の取得に伴い発生する資産見返負債<sup>\*</sup>が大半を占めています。

また、2017事業年度における当期総利益は、約1,807百万円となっております。これは、附属病院において、医療体制の強化を図ったことによる入院患者数、外来患者数の増加及び薬品・診療材料の仕入費用削減努力などの経営努力により、附属病院収益が約1,033百万円増加したことが主な要因です。

なお、当期総利益のうち約999百万円については、文部科学省の承認後、目的積立金として2018年度以降の施設・環境整備事業等に充てられます。

今後も、教育・研究・診療に力を注ぎ、外部資金の獲得などによる自己収入の確保並びにより一層の経費抑制に努め、健全な財務運営を行ってまいります。

<sup>\*</sup>「資産見返負債」:国立大学法人特有の会計処理で、固定資産取得額と同額を負債に計上するもの。毎年、減価償却を行うことで減少し、現金の増減を伴わない負債。

詳しくは、「平成29事業年度財務諸表」をご確認ください。

URL [https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/corporate22/corporate22\\_finance/](https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/corporate22/corporate22_finance/)



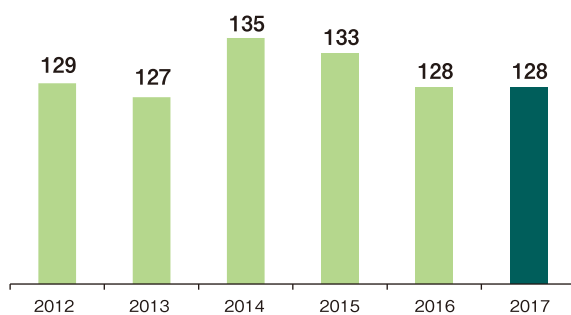
## 財務データ

### 教育関係経費

教育関係経費は、113億円です。学生1人当りに換算すると128万円となります。教育関係施設の修繕費が増加した一方で、教員人件費が減少したことなどにより、前年度と同程度の金額を維持しています。

学生1人当たりの教育関係経費※

(万円)



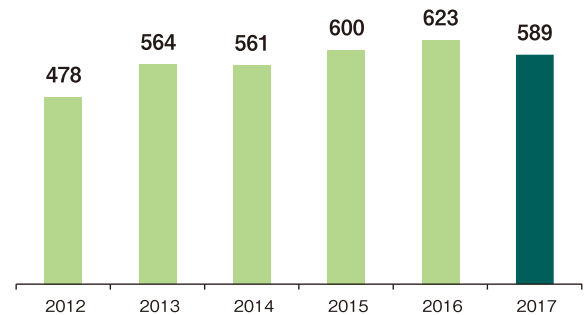
※(教育経費+教育研究支援経費+教員人件費)/学生数

### 研究関係経費

研究関係経費は、53億円です。教員1人当りに換算すると589万円となります。研究関係施設の修繕費の減少、また資産の取得が増加したことにより、前年度と比較して減少しています。

教員1人当たりの研究関係経費※

(万円)



※(研究経費+受託研究費等+科学研究費補助金等)/教員数

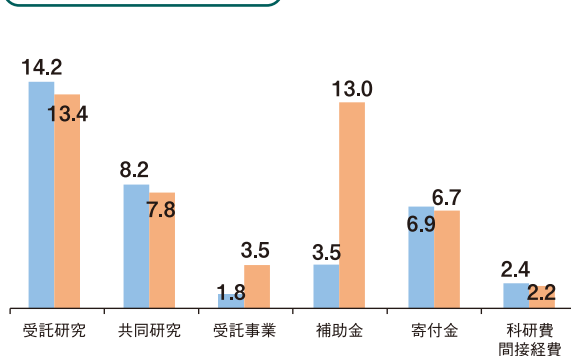
### 外部資金

2017年度の外部資金の収入実績額は、予算額を9.6億円上回っております。これは、国から交付される運営費交付金等が減少傾向にある状況において、教職員の努力により外部資金を獲得した成果です。今後も教育・研究活動に支障を来たすことがないよう、継続的な外部資金の獲得及び経費抑制に努めます。

外部資金(予算額・実績額)

■予算額 ■収入実績額

(億円)



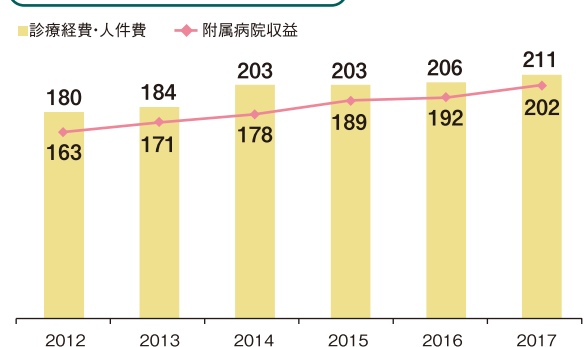
### 診療経費(含む人件費)と附属病院収益

附属病院収益は202億円で、前年度より増加しておりますが、収益の増加に伴い、診療経費等についても増加しております。収入の増加率が費用の増加率よりも大きくなっているため、利益は生じているものの、附属病院の経営が厳しい状況に変わりはありません。

附属病院の使命を果たすため、引き続き経営改善に努めます。

附属病院収益と診療経費・人件費

(億円)



## 山形大学の1年間の運営にかかる国民一人当たりの負担額 107円

山形大学の国立大学法人等業務実施コスト 約135億5,921万円÷1億2,659万人(「人口推計」(総務省統計局による2018.1 現在))



## ■ シンボルマークについて

山形大学のシンボルマークは、2001年に21世紀を迎え、本学の更なる発展を期し、学生と教職員の一体感を高めるに相応しいシンボルとして、公募により制定されました。教育学部4年(1998年度入学)千葉麻里子さんの作品を教育学部和田直人准教授(当時)が補作したものです。

## ■ VIデザインについて (VI:ビジュアル・アイデンティティ)

2015年度に実施したVI統一デザイン公募事業において最優秀賞に選ばれた齋藤堅太さん(2015年3月地域教育文化学部卒業)の作品をベースとし、学内に設けたVI統一デザイン整備検討WGにより整備しました。

## リニューアルレポートに関するお問い合わせ窓口

### 国立大学法人 山形大学 財務部財務課

〒990-8560 山形県山形市小白川町一丁目4番12号

TEL:023-628-4052 FAX:023-628-4051

山形大学ホームページ <https://www.yamagata-u.ac.jp/>

